



さくら便り

37号

令和4年12月

「さくらの会」は今年より2月末日まで剪定作業を行います。胴ふき枝・ひこぼえ・枯れ枝の除去、サルノコシカケ・害虫の卵の除去等が主な作業です。桜木は180本くらいありますので少しずつ行っていきます。この作業は桜木を少しでも長持ちさせるためと、見栄えを良くするために必要と思っております。来年も皆様に楽しんで頂ける様励みます。

皆様良いお年をお迎えください。

(散歩の友) 今回は木曾川・境川の変遷について書かせて戴きます。「木曾川の河道は、1586年以前は前渡村から羽栗郡松本村の北を経過し、三井山の麓を通り、小佐野・大野二村を経て、平島村を過ぎ芋島村に至り、境川を入れ、中島村を経て西流し三宅村に至り、印食村より南流し徳田村を経て、笠松の西北を過ぎ柳津村に至る」と書物に書かれています。これは木曾川の幹流であります。この辺りは古地図を見ますと網目状に幾筋も川が流れていたようです。洪水の度に河道が変わり、土地争いが何度も起きています。広野川事件(769)が有名です。広野川事件は美濃・尾張国境の河道の流れの争いです。木曾川は1586年6月24日の大洪水により、現在の河道となりました。1601年尾張側に堤が築かれ、1609年には美濃側にも堤が築されました。1650年には大堤も築されました。ここにおいて木曾川の幹流であった境川は、前渡村に於いて河口が塞がり水脈を絶って、各務郡北部の各務原より発してくる一小川の下流となりました。1704年から1705年にかけて、河川の水流の障害となる葎・木・竹藪など取り払う河道整理が行われました。高田村に関しては藪・柳等が取り払われ、建物によって川幅が狭くなっている所を広げたとあります。高田は昔から水害に悩まされてきました。今でも多く雨が降ると冠水します。昨今は未曾有の災害が起こる時代です。自治会・治水研究会の方々が努力されていますが、皆様も水害について考えてみて下さい。面白い記事がありましたので追記します。28代宣化天皇(540年前後)の齊名を檜隈高田王(くまのたかたのみこ)とありました。高田と関係があるのでしょうか。又、野土島公園北に「御所」という小字名がありました。宣化天皇の住まいだったのか、興味ありますね。

(ホームページ)

パソコン

<https://gifutakatamachi.sakura.ne.jp/wp/>

スマホ・タブレット



桜を愛する会